TAC税理士講座

～ 2026冬 オンライン特別セミナー ～

ミニ税法・科目別分析

酒税法



1　科目の特徴

酒税は、お酒（酒類）に対して課される税金であり、酒類が日本国内において消費される場合には、国産酒類、輸入酒類を問わずに酒税が課されることになります。

酒税を国に納付しなければならない者は、国産酒類の製造者と輸入業者ですが、製造者や輸入業者により納付される酒税は、卸売業者や小売業者といった流通段階を経て、消費者が購入するまでの間、酒類の価格に含まれて、順次、取引の前者から後者へと転嫁され、最終的に消費者が負担することになります。

なお、酒税法は、消費税法が導入された平成元年度の税制改正に伴い、出題範囲が大幅に削られたため、全11科目の中で最も短期間で合格レベルに達することができる科目です。したがって、学習時間を多く取れない人にとって最適な科目であるといえます。また、会計や他の税法の知識を全く必要としないことから、税理士試験初心者の人でも無理なく始められる科目です。

2　本試験の特徴

(1) 割　合

理論30点、計算70点

(2) 理　論

理論マスターの題数は22題であり、本試験に必要な題数は基本的に15題前後です。

なお、本試験においては、個別理論の出題以外に応用理論や事例問題も出題されますが、重要性の高い論点（Ａランク理論及び一部のＢランク理論）が繰り返し出題されているため、対策が立てやすいといえます。

(3) 計　算

酒類の判定(原料、製造方法、アルコール分及びエキス分を基に行う酒類の分類)と酒類製造者の１月当たりの納付すべき酒税額を求めさせる問題が出題されます。

なお、本試験においては、酒類の判定が重要となりますので、酒類の製造方法や原料の範囲などの知識を正確に押さえることが重要となります。

3　このような方にオススメ

・簿記の学習が未経験の方

・理論暗記が心配の方

・仕事や学校などで多忙な方

4　１月入学 速修コース

基礎から学習を始め、７ヵ月間で本試験レベルの実力まで引き上げる短期集中型のコースです。１月～４月までは本試験の出題実績等を勘案して、頻出論点・重要度の高い論点を中心に学習することで、短期間で合格に必要な知識の習得を目指し、５月以降（直前期）は、多くの演習問題を解くことで実践力を養い本試験に臨みます。

	基礎・応用期（１月～４月）	直前期（５月～７月）
input	●基礎・応用講義（180分×12回）	●直前対策講義（180分×４回） ●合格情報講義（180分×１回）
output	●実力テスト（180分×４回）	●実力完成答練（180分×４回） ●直前予想答練（180分×１回） ●全国公開模試（１回）

＜学習上のポイント＞

・４月までは酒類の判定を中心に復習する。

・理論暗記は早め早めに！

・疑問点や心配事は質問電話や質問メールで早めに解消する。